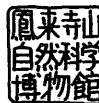


# 博物館でお買い物・ミュージアム ショップ (博物館のお店)

はぶつかんたまり No.81  
2003.1



## 岩石標本 (人気ナンバー1)

子どもから大人まで、中広い人気があります。  
鳳来町は中央構造線をはさんで、三波川変成岩類(西南日本外帯)と領家変成岩類、領家花崗岩、設楽層群の火山岩・堆積岩類(西南日本内帯)が分布しています。  
ひとつの町で、これだけの地質現象が見られるところはありせん。博物館では、鳳来町とその周辺で採集できる岩石を標本用に割って販売しています。  
学校の実物標本、自由研究、コレクション用など、さまざまな目的で購入されます。最近では、インターネットを利用して、全国から注文があります。



### 岩石標本コーナーと種類

- ・花崗岩
- ・斑れい岩
- ・玄武岩
- ・安山岩
- ・流紋岩
- ・松脂岩
- ・溶結凝灰岩
- ・凝灰岩
- ・れき岩
- ・砂岩
- ・泥岩
- ・頁岩
- ・石灰岩
- ・結晶質石灰岩
- ・粘板岩
- ・片麻岩
- ・緑色片岩
- ・蛇紋岩
- ・フォルンフェルス

全種 / 個 50円



## 館報などの博物館刊行物



開館以来39年にわたり発行してきた館の出版物の数々です。まさにここでしか手に入りません。当館のホームページで紹介したところ、全国から注文がかかるようになりました。なかには全冊セットで購入する人もいます。

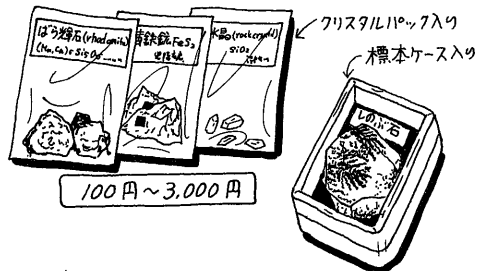
### 博物館の既刊本リスト

- ・鳳来寺山概説(1.3.5.6.7.9.10集): 各100円
- ・館報(1~31号): 価格は各号で異なります
- ・鳥居喜一寄贈 東三河の植物標本目録: 5,000円
- ・鳳来寺山の自然誌: 5,500円
- ・鳳来寺山—その自然をめぐって—: 2,000円
- ・仏法僧—コハズクと人と自然—: 1,000円
- ・鳳来寺山自然観察ガイド: 200円
- ・親子自然観察: 500円
- ・30年の歩み: 500円
- ・はぶつかんたまり収録集(No.1~54号): 300円
- ↳ 購入時にNo.55以降のシリーズもおまけしています

## 鉱物、岩石のかわいいミニパック

奥三河は、いろいろな鉱物を産する地域として有名です。標本を採集した際に出る破片をクリスタルパックなどに詰めて販売しています。子どもたちに超人気で、すぐに品切れになります。次のような鉱物が時期によって、ショーウィンドウに並びます。

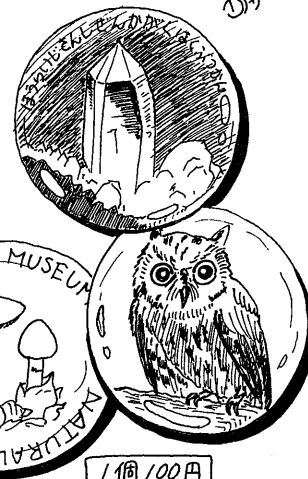
- ・水晶
- ・サワロ石
- ・しのぶ石
- ・あられ石
- ・黄鉄鉱
- ・中牟利石
- ・バラ輝石
- ・方解石
- …… などなど



100円~3,000円

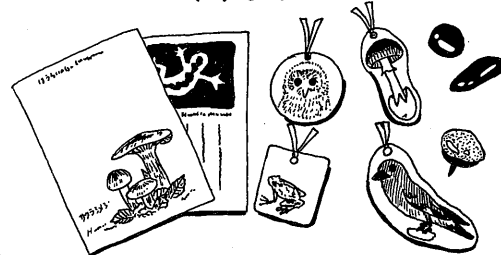
## カンパッチ (人気ナンバー2)

平成11年8月にデビューした商品です。動物、植物、鉱物、きのこなどから、人気のキャラクターの写真やイラストを、直径5.5cmのカンパッチにしています。現在50種以上用意しています。7ルーフや個人用に特別注文も受けています。1個から何個までオリジナルのカンパッチが作れるので、とても喜ばれます。家族やペット、友だちの写真をパッチにしてプレゼントに使う人もいるようです。\*特注品の場合、単価が高くなる場合があります。要相談。



1個100円

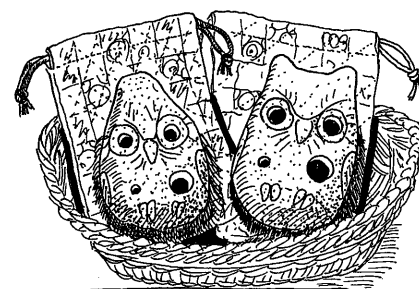
## オリジナルカードなど



これまで館で描いてきたスケッチやイラストなどに少し手を加えて、ポストカード(絵葉書)や、ラミネーターを使って葉を作っています。博物館の思い出にと、買う人が多いです。また、鉱物をはりつけたマグネットや、画びょうも隠れた人気グッズです。

## ひろべえのオカリナ

学術委員の三津井宏先生は、オカリナ作家(ひろべえ)でもあります。仏法僧オカリナは、当館限定です。



特製布ケース付 1,000円

## 委託販売商品 (印刷物)

- 奥三河1600万年の旅
- 美しき大渓谷1億年の旅
- 奥三河の滝 10万年の旅
- きらめき鉱物、化石ガイド
- 奥三河自然讃歌
- 手習り染めポストカード
- 植物からのSOS
- 三河の植物
- 三河湾 島の昆虫
- 豊橋市の植物
- 彼の山、彼の川、彼の野鳥
- 鳥見ひと徒然草
- 愛知のミュージアム
- 自然からのSOS動物編・植物編
- 心の住む家
- 蛙の脱糞

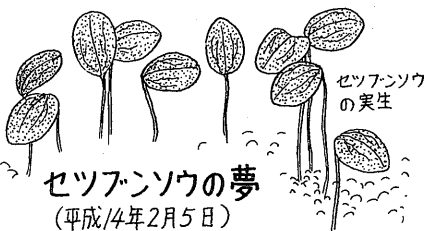
当館のミュージアムショップは、ホームページでも店びらきしています。↳ <http://village.infoweb.ne.jp/~hourai99/index.html>

# 早春の博物館



## イノシシ、シカ、タヌキたちの出張 (展覧会：1月11日(土)~2月23日(日))

一宮市博物館を会場にして、子どもと博物館研究会の企画事業「伝えるということは?~学芸員が贈る子どもたちへのメッセージ」展を開催しました。当館も「自然と人のかかわり」をテーマに出展。考古、民俗、歴史、美術の分野で自然物がどのように使われているかを、フィズ形式で紹介しました。絵筆に利用される獣毛、民具の材料、顔料に使われる鉱石、和紙の原料など。山びこの丘からもイノシシや民具の応援をしてもらい、鉱物、剥製、樹木標本が尾張一宮まで出張していきましました。



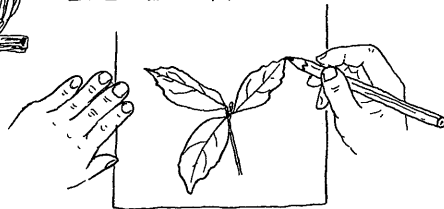
## セツアソウの夢 (平成/4年2月5日)

学術委員の山田由乃先生が、昨年セツアソウの種子をもらい受け、館の中庭にまいたところ、一帯にみごとに芽が出ました。すばらしい発芽率です。この調子ならば「博物館をセツアソウの花園にできるかなと、山田先生の夢もふくらんでいます。現在、敷地内で移植の適地を選定中です。



## スケッチの会 (平成/5年1月19日、50人参加)

友の会の事業です。学術委員の先生に講師になってもらいました。自然科学でおこなうスケッチは一般的な写生と異なります。対象物の観察のしかた、スケッチの基本を学んでから、実際に標本や実物を目の前にして、真剣に取り組みました。観点が定まると、皆みるみる上達します。魚のスケッチでは、うろこひれの数まで正確に数えて描きました。



## ひな祭りのひし餅をつくろう (平成/5年3月2日、25人参加)

子ども博物館研究会「伝えるということとは?~」のワークショップとして企画し、開催しました。友の会の小椋会長に講師をお願いし、餅つき道具も一式貸してもらいました。赤いひし餅には紫黒米、緑の餅は各自で採集してきたヨモギを使用しました。小椋さんに道具に使われているさまざまな木の特質を教わりながらひし餅づくりを楽しみました。

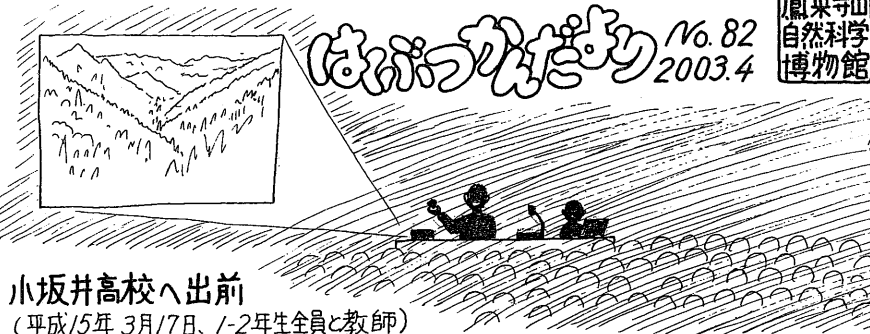


## 屋上のヤマドリ事件 (平成/5年2月8日)

朝のそうじで展望室まで登ると、展示棟の屋上にヤマドリが倒れていました。黄金色の羽が散乱し、近づくとお腹がくいやくぶられて、食べたばかりと思われる好物のドンクリもちらばって、むざんな姿でした。犯人は、すぐ上を飛び去ったガラスほどの鳥で、羽の下は白っぽく見えました。オオタカかもしれません。ヤマドリは



気のどくですが、タカにとっては朝食のじゃまをされたゆけで、迷惑だったにちがいない。



## 小坂井高校へ出前 (平成/5年3月7日、1-2年生全員と教師)

文部科学省サイエンスパートナーシッププログラムとして、小坂井高校で「東三河の自然と生物」と題して、博物館の出前をしてきました。館長は「三河地方の地形と鉱物」、学芸員は「三河地方のキノコ」について担当しました。特別展で作ったパネルや、実物標本を持ち込み、体育館に展示して、それぞれのテーマで講義を行いました。このような大規模なものは今回が初めてですが、今後こうした要請が多くなりそうです。

## 鳳来寺山を歩いて冬の自然を見よう (平成/5年2月16日、82人参加)

あいにくの雨でしたが、欠席する人もなく恒例の豚汁にみきよせられるようにおおぜいの参加者でにぎわいました。動、植、地学班に分かれて、冷たい雨の中や館内の観察に出かけました。冷えきった体でもどってくと、具だくさんの熱い汁はやっぱりうまかったです。



## 小学生のゴハズク巣箱作りと調査 (平成/5年2月8日・9日)

地元の鳳来寺小学校の児童(11人)と先生(5人)、門谷21世紀委員会のメンバーで、ゴハズク用の巣箱を作りました。翌日は作った巣箱を持って、すでに掛けてある巣箱の調査をしながら、こわれたり落ちてしまっているものを取りかえていきました。ムササビが飛び出てきたり、モグラの仲間のヒミズが頭のくいちぎられた姿で入っていたり、おどろきと発見の調査になりました。



紫水晶

## セリサイトの鉱山 (平成/5年2月10日)

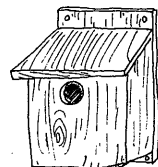
出前博物館で使用するセリサイトを分けていただくため、東栄町の三信鉱工へでかけました。事務所では井戸入坑から産出した紫水晶も見せてもらい、紫石英も標本にと下さいました。また、許可を得て訪ねたズリ場では、黄鉄鉱、硫砒鉄鉱などの新鮮な資料が採集できました。さっそく、館長が東三河の鉱物コーナーに展示をしました。



ムササビ



頭のないヒミズ



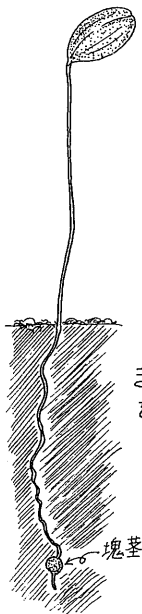
# 春の博物館

鳳来寺山  
自然科学  
博物館

はぴっかだより No.83  
2003.5

## セツアンソウの移植 (平成15年4月19日)

池場の金田和三さんからいただいた種がみごとに発芽(No.82参照)し、由乃先生が移植の準備の為に掘り出しました。地下5cmほどまで伸びた茎は、その先に塊茎をつくっていました。極小の種子から固い大地に芽を伸ばし、地中深くから命を支えていることがよくわかりました。移植は、ここまで掘らなければ成功しません。



## 春の自然記録

- 4月17日 ウスバシロチョウ初見(門谷)
- 4月18日 サシバ初見(門谷)
- 4月27日 ハルシメシ発生(四谷)
- 5月8日 モリアオガエル産卵(鳳来寺山)
- 5月26日 アカショウビン確認(湯島)

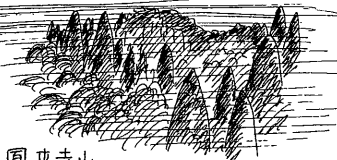


## コハズク放鳥 (平成15年5月1日)

昨年11月7日から博物館で保護飼養していたコハズク(Ⅷ号)が無事飛び立っていきましました。名古屋市港区汐見町で落ちていたところを保護された個体です。幸い外傷はなく、衰弱だったため放鳥できました。鳳来寺と西の小学生が見守る中、人垣を突きぬけるように林の中へ去っていきましました。ひと冬いっしょにくらしたので淋しい気持ち、きびしい自然界でたくましく生きのび、鳳来寺山にとどまってくれたい思いで見送りました。

## 今年も「仏法僧」 (平成15年5月3日)

この日の早朝4時頃、鳳来寺山麓に住む幡野千代子さんがコハズクの鳴き声を確認しました。今年の初記録です。その後は聞いていませんが、山中のどこかにいることを願っています。



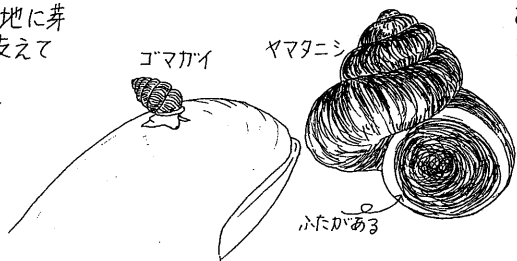
## 館報32号発刊 (平成15年3月31日)

今年も博物館報が発行できました。体裁はB5版105頁、カラー印刷です。  
・三河地方に分布するオオシヒゲコマツキ  
・杉山隆二先生からの書簡  
・県民の森の植物  
・三河地方の冬虫夏草菌  
・田口鉦山のハイロクスマンガン石  
・鳳来寺山のホンドモモンガ  
・鳳来町の天然記念物(3)  
・平成13年度事業報告  
などが収録されています。窓口で販売しております(1,200円)。



## 「モリアオガエルや春の生きものをさがそう」 (平成15年5月25日 くもり 69人参加)

博物館を出発し、石段を登り中腹の医王院の近くにある池まで行きました。途中、7モを食べるオナガクモやホトケドジョウ、十数年ぶりに姿を見せたヤマタニシ、ゴマツボよりも小さいゴマカイも見つかりました。池では地上4~5m付近の枝にモリアオガエルの卵塊が6ヶ、産みつけられていました。そして、その木の洞からはモリアオガエルが顔を出し、参加者を喜ばせてくれました。

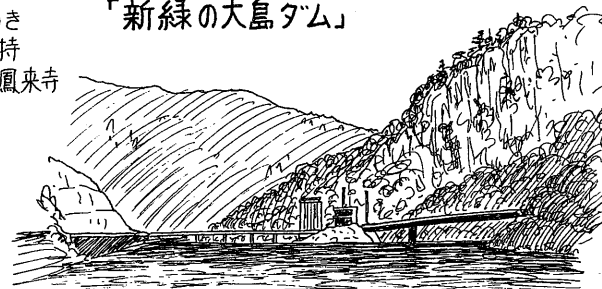


## 子ども自然講座「草花を楽しもう」 (平成15年5月10日 はれ 8人参加)

今年で2回目の講座です。ウマノアシガタ、シシバリ、オニタビラコなど黄色の花が目立ちました。熟すと真っ黒になるカラスエンドウ、豆が2つだけできるスズメエンドウ、カラスとスズメの中間のカスマクサの見分け方もわかりました。観察の後は標本づくりやしおりを製作して楽しみました。



## 「新緑の大島ダム」

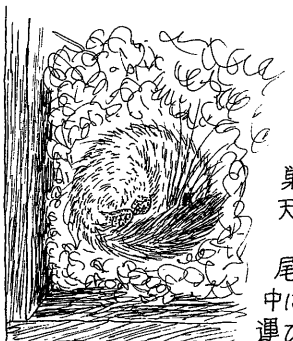


(平成15年4月29日 はれ・くもり 97人参加)

長い雨が止み、絶好の植物観察会になりました。今は使われなくなった旧道沿いに、車にじまされることもなく、ゆっくりと新緑を楽しむことができました。地味で目立たないカンアオイの花、かわいらしいチゴユリも見る事ができました。満水のダム湖畔で昼食の後は、溶結凝灰岩の岩壁を目の前にして、観察のまとめをしました。

## 鳳来町にヤマネ生息! (平成15年3月31日)

宇連ダム周辺に掛けてあるコハズク用の巣箱に珍客がいました。日本固有種で天然記念物になっているヤマネです。鳳来町では初記録と思われる。尾張野鳥の会会長の浅沼さんが巣箱調査中に発見しました。まだ冬眠中で、カラ類の鳥が運込んだコケの中でピンポン球のように丸くなっていました。



## オオコハズクの声

「ギョッ! ウォッ」  
「ポウ、ポウ、ポウ」

池場坂で7チバシから血を流して保護(1/31日)されたオオコハズクは、未だに飛べず放鳥できません。でも、2月頃からよく鳴くようになりました。サルのさけび声のような声を発したり、リズムよく低い声で「ポウ ポウ ポウ…」とくり返し鳴いたりします。初めて知りました。

## 「濃尾地震と根尾谷断層」 (平成15年5月18日 はれ 47人参加)



明治24年10月28日に東海地方をおそった濃尾地震は死者7,273人、全壊家屋142,177戸という大災害をみまこしました。地震の大きさはマグニチュード8.0で、内陸で起きた地震としては国内最大です。今回はその現地を見学しました。この根尾谷では左方向に8m、上下に4mも大地がずれました。その真上に地震断層観察館が建っています。地震のこわさが実感できました。

# 初夏の博物館

「博物館40年の歩み」展 (平成15年3月26日～6月8日)

はつかたのり No. 84  
2003.6

鳳来寺山  
自然科学  
博物館



鳳来寺山鷹打場でコノハズクの声  
(平成15年6月5日、はれ)

5月3日に山麓で確認されて以来、途絶えていましたが、約1ヶ月ぶりに聞くことができました。毎晩のように調査ポイントで耳を澄ましていましたが全く聞けませんでした。この日は友の会的小椋会長と鳳来寺山の行者越付近にテントを張り、調査することにしました。

日が沈むとヨタカ、ムササビ、フクロウ...と順に鳴き出し、月あかりの中、山がざわつく感じの絶好のコンディションでした。

22時29分、鷹打場の方角から、かすかな声で「フッポーソー」と鳴き出しました。徐々に調子もあがり、しだいにはっきりと聞きとれるようになりました。23時30分まで断続的によく鳴いてくれました。6月まで声が聞けたのは近年ではなかったことです。



昭和38年4月26日は鳳来寺山自然科学博物館がオープンした日です。今から40年も昔のことです。当時は愛知県下に博物館が10館ほどしかない時代(現在は愛知県博物館協会加盟館13/館)でした。

この特別展では、博物館誕生の原動力となった人々や開館後の様々な活動を写真やパネル、資料と共に紹介しました。期間中1,948人の見学がありました。

展示作業をとおして、博物館の歴史の深さと使命の重さをあらためて痛感しました。そして40周年を節目に新たな前進をちかう機会になりました。



モリアオガエルの産卵ラッシュ  
(平成15年6月12日)

鳳来寺山のモリアオガエルの初産卵は5月8日でした。10日にはこの地方も梅雨に入り、山麓での産卵も本格的になってきました。この日は館のハナキで2組がとまりあわせて産卵し、卵塊が鈴なりです。

## イモリの脱皮 (平成15年6月6日)



飼育しているイモリが膜のようなゴミを体につけて泳いでいるのを職員(森下、清尾)が見つめました。ひろいあげてみると、脱皮したばかりの皮のようでした。海藻の標本を作る要領で台紙にひろげてみると、みごとに手足がわかりました。脱皮した皮はふつう食べてしまうようで目にとりません。よく観察していたので判明したことです。

## 「仏法僧を語り、聞く会」

(平成15年6月7日-26人参加、14日-27人参加)

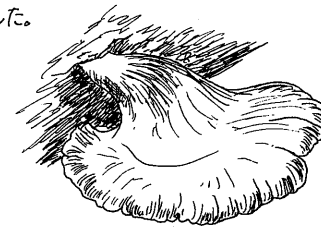
開山1300年祭事業「アライブ・ぶっほーそー」の行事として企画しました。昭和10年のラジオ放送が大成功した日にちなんで、7日と14日の2回、実施しました。博物館でコノハズク7の生態を学んでから、昨年まで鳴き声がよく聞けたポイントへ移動。約1時間、耳に全神経を集中させました。残念ながら時間内に聞くことはできませんでしたが、部屋にもどってから地元の人々との仏法僧座談会もあり有意義な「語り、聞く会」になったと思います。

ヨタカやゲンジボタルには会えました。



## オオヒラタケ (平成15年6月12日)

県民の森で学術委員の山田弘先生が見つめました。ヒラタケによく似ていますが、ヒタケが柄に長く垂生しつなっています。ナスのようなにおいがする点も特徴です。珍しいきのこで、食用になります。

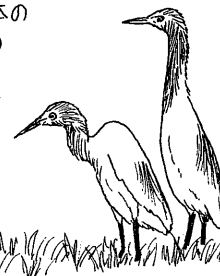


## 「地層と化石を学ぼう」

(平成15年6月7日、はれ)

第2回の子ども自然講座です。すごい人気で42人の参加がありました。田代地内で花崗岩、安山岩と観察した後泥や砂が堆積してきた地層の観察をしました。

現地ではハンマーを使って標本の採集をしました。岩石のでき方のちがいを肌で実感できたと思います。最後の化石の産地では、キラガイやツキカイモドキやソテガイのなかまなどの貝化石と植物の化石が採集できました。



## アマサギ初確認

(平成15年5月28日)

名越の水田で7チバシから頭、首にかけて橙色をしたサギ2羽を見かけました。見なれない鳥なので調べてみるとアマサギでした。町内では、初めて確認した鳥でした。

## 「るり山・No.8」発行 (平成15年4月20日)

友の会総会、学術委員総会にあわせて友の会報の「るり山」を発行しました。読んでみたい人は会員になりましょう。



## クマが出た!! (平成15年5月21日)

東京町でツキノワクマと思われ「クマハギ」が見つかりました。尾々の標高700m付近の山中で仕事をしていた柳沢さんと有水さんが、この日の朝に発見しました。「クマハギ」とは自然林を伐採した後に植林されたスギやヒノキなどの樹皮をはぎとるもので、ここの現場では、はぎとられた皮の下にたくさんの爪跡が残っていました。また姿は見えていないようです。平成12年10月に愛郷地内でクマ騒動がありました。鳳来町にもいるのでしょうか?



# 夏の博物館事情

## 博物館協力隊の発足 (平成15年6月27日)

これまで友の会メンバーには様々なかたちで博物館活動のお手伝いをしてもらってききましたが、今回、正式にボランティアグループを結成することにしました。

名称を「博物館協力隊」として募集したところ、おおせいの応募がありました。説明会と面談の結果、21名の方々が第1期の隊員として登録されました。今後、教育普及、資料整理・調査、環境整備などの分野で支援をお願いすることになります。心強く、ありがたいことです。小さな博物館にとって、大きな力になります。



## 友の会会員700人の大台に!! (平成15年8月11日)

この日、鳳来町の宮田さんが入会し、会員数は730人になりました。

昨年600人を突破し、喜んだばかりです。

今年はグループ会員制度を利用して町内の小中学生が先生と共に、団体で入会してくれたことが、会員増につながりました。

9月から工事で半年間の臨時休館となってしまいますが、

学習会やイベントはいつとおりで開催し、期待を裏切らないよう、いっそう努力します。



## うらめしかった台風10号 (平成15年8月8日~9日)

8日~10日に予定していた講座で、教師用の「鳳来寺山のできた」。そして宿泊の学習会「鳳来寺山の森や水辺の生きものをさがそう」が、この台風のために中止になってしまいました。台風の観察会は、抽選になるほどの人気で、楽しみにしていたので残念です。



## 特別展「奥三河の自然」 (平成15年7月19日~8月31日)

自然の豊庫である奥三河にスポットをあてて展示をしました。

地学、植物、動物の分野の学術委員が担当し、特徴的な自然を紹介しています。



「落ち葉の下や草はらでくらす生きものをさがそう」のテーマでおこないました。大平仁夫先生の講師で博物館周辺の観察をしていると、カラムシの繁っているところでは、宝石のようにきれいなカミキリムシが、たくさん目にとまりました。つかまえてみると、ラミーカミキリでした。熱帯系の虫で、最近よく見かけるようになりました。

## 雨の「自然と博物館利用講座」



### 教師向け講座

「鳳来寺参道沿いの興味深い植物」  
講師：三津井宏先生  
(平成15年7月23日、5人、雨)

雨の中、参道沿いをツケササ類、シダ類を中心に観察しました。館にもどってからは、竹を使った楽器作りや利用法について話がありました。

「参道を歩きながらの野鳥観察」  
講師：緒方清人先生  
(平成15年7月30日、6人、雨)

野鳥観察に適した時間帯は早朝です。そこで講座の開始は6時になりました。あいにくの雨でしたが15種の野鳥の姿や声を確認できました。館内では、展示を利用して鳥の生態について、くわしく話を聞くことができました。



## 学習会「奥三河の鉱物採集」 (平成15年8月3日、47人、曇り)

東京町の三信鉱工でおこないました。会社の厚意で鉱山の話や、坑内の案内もしていただきました。そして、セリサイト(絹雲母)の鉱石のスリ石から、黄鉄鉱や硫砒鉄鉱の新鮮な鉱物と採集できました。おみやげに硫砒鉄鉱の巨晶もいただき、感激! 参加希望者が定員の3倍もあり、抽選でもれた方には、おわび申しあげます。



## 友の会行事「梅雨期のきのこ観察会」 (平成15年6月28日、57人、雨)

鳳来寺山周辺での観察会でした。テンクダケ科やイクアチ科のきのこがたくさん顔を出していました。

テンクダケタマシは傘の表面のイボが△形にとがっていて小型なことからテンクダケと見分けることができます。



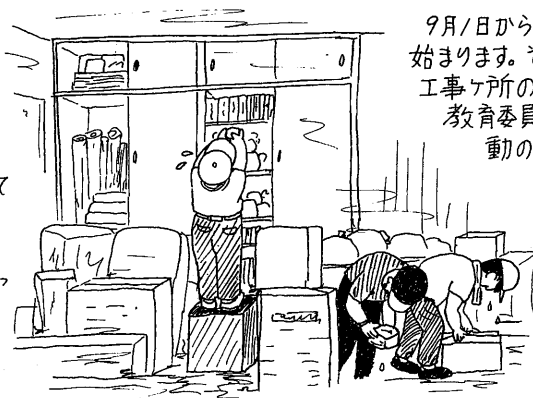
テンクダケタマシ

## 博物館大規模改修工事 (臨時休館：9月1日~平成16年2月28日)

9月1日から、いよいよ本格的な工事が始まります。それまでに事務室をはじめ工事ヶ所の引越しを終えてしまわなければなりません。教育委員会総出の応援も受けて、井付けと大勢の作業を進めています。

40年間の積りに積った荷物と連日格闘です。結成間もないボランティア「博物館協力隊」の環境整備グループと初出勤となりました。

全員が汗まみれ、ほこりまみれで働いてくれ、ほんとうに頭がさかかります。事務室は駐車場の7A17Aに移転します。





# 博物館大規模改修工事

◎工事のようす◎

はぴっかだより

鳳来寺山  
自然科学  
博物館

No.86  
2003.9

鳳来寺山自然科学博物館は「教育の振興を図る」ことを目的に、昭和38年4月26日に開館しました。

日本初の二重展示方式を取り入れた、国内でも数少ない自然科学の博物館で、しかも、町立でこのように立派な館を建設できたことは、画期的なことでした。

開館時から行われている野外学習会や特別展など、活発な活動を続けてきています。博物館友の会は、会員数734名の大世帯に発展し、熱心が集ってきます。そして今年にはボランティアグループ「博物館協働隊」が発足しました。

地域に根ざし自分たちの町の博物館として愛され、活用される博物館を目指して40年にわたる歩みをつづけてきました。

今年40周年の記念すべき年です。

関係者の並々ならぬ努力と情熱で建設された博物館ですが、40年の歳月で老朽化が深刻になってきました。

また、耐震検査の結果、大地震に建物が耐えられないとの診断でした。

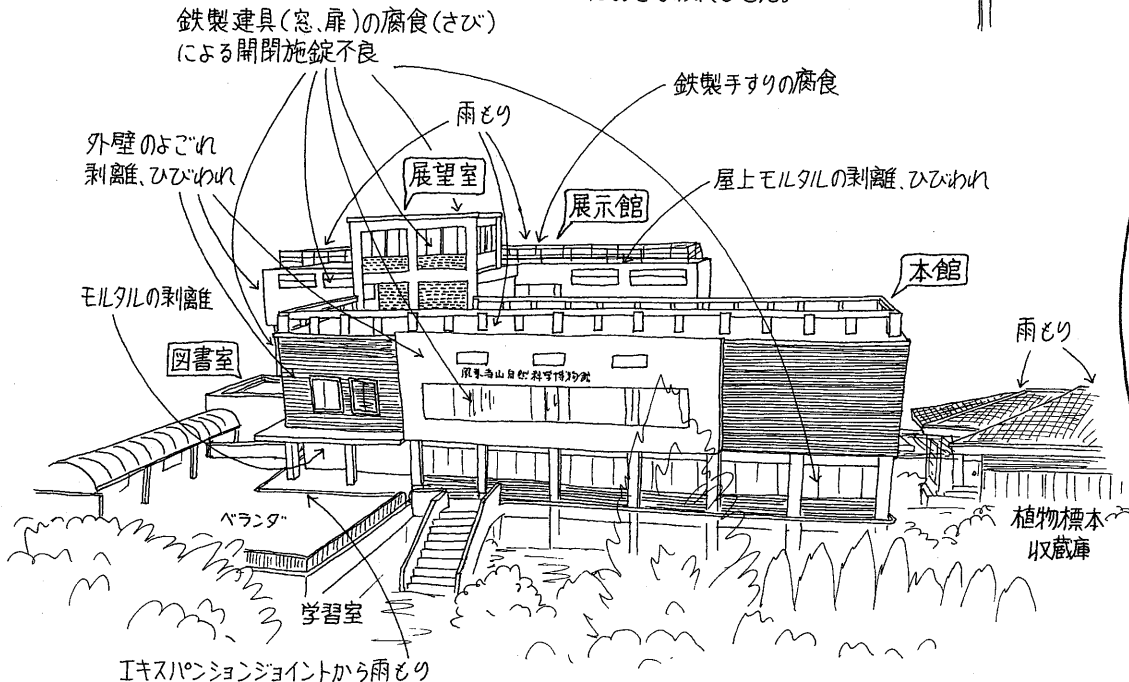
そこで今回、老朽部分の改修と耐震補強をしてもらうことになりました(11,025万円)。

地震対策としては、柱と柱の間に厚さ20cmのコンクリート壁をつくり地震にそなえます。

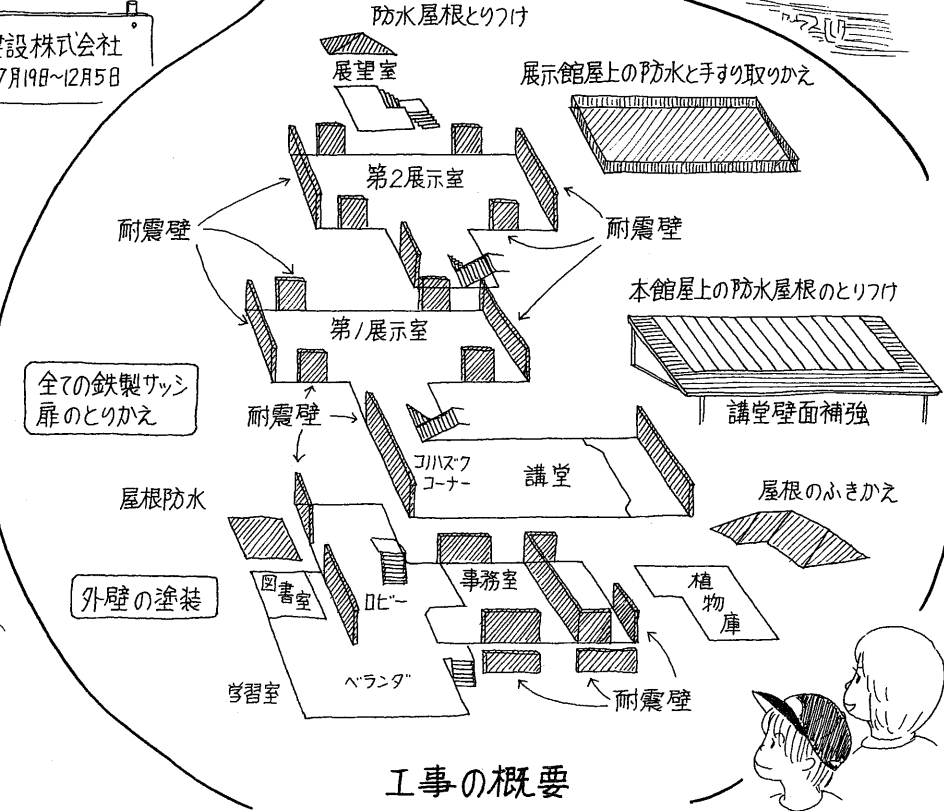
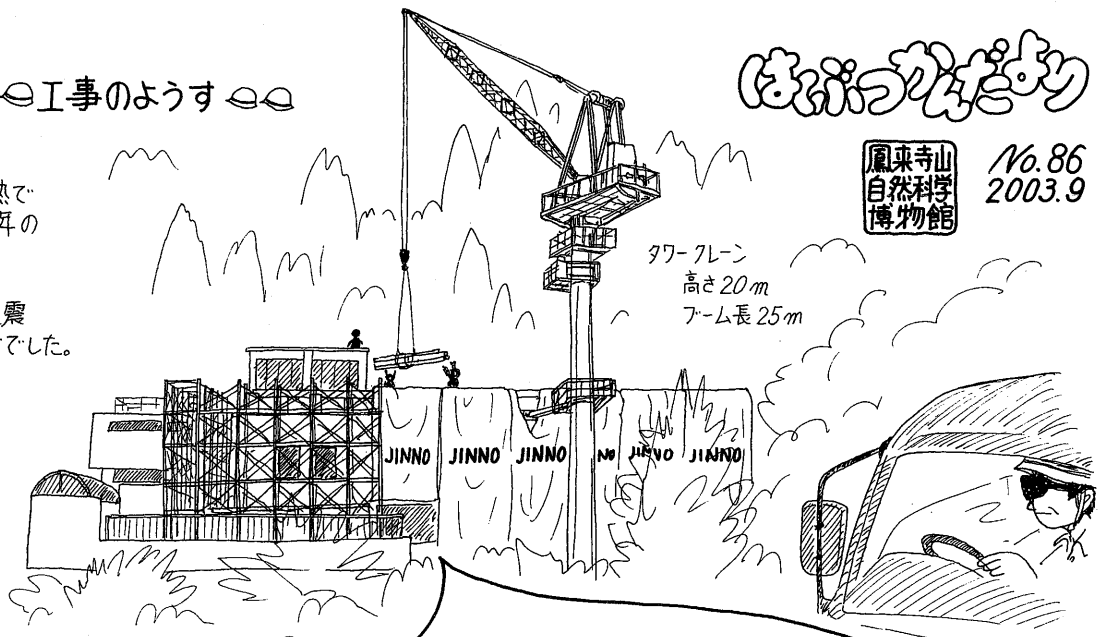
工事のはじめでは、コンクリートを砕く騒音と粉塵が出て、ご近所にはたいへん迷惑をおかけしています。おゆるし下さい。

この工事では、展示などの改修はおこなわれません。

## ○工事前の博物館のようす○



施行 神野建設株式会社  
工期 平成15年7月19日～12月5日



## 工事の概要

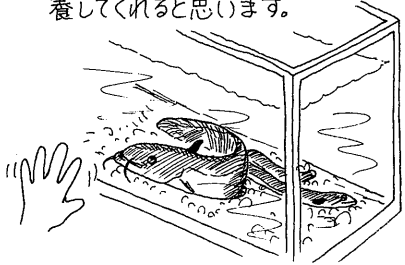
# 只今臨時休館中です



か

里親 (平成15年8月末日)

今回の工事で、博物館で飼育展示していた、水槽のウナギとナマズを、里親にあずけることにしました。友の会の小椋会長宅です。博物館よりとだいに飼養してくれると思います。



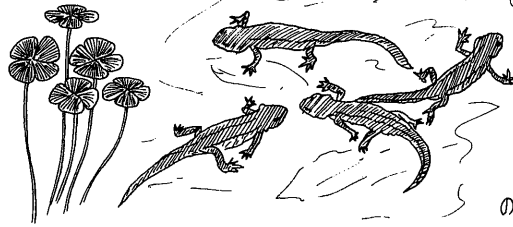
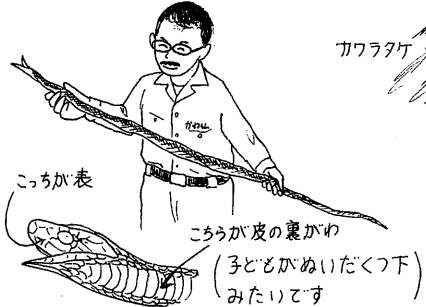
謎のサンショウウオ (No. 77 参照) は博物館の清尾加里親になりました。ずいぶん成長して、近ごろはすっかりイモリの姿です。どうやら正体判明です。

## アオタイショウの脱け殻

(平成15年9月18日)

川合の小野田さんから、蛇のきれいな脱け殻をいただきました。いろいろな生物の脱皮標本を集めようと考えていたのでありがたかったです。どこも傷がなく、いい標本になりそうです。

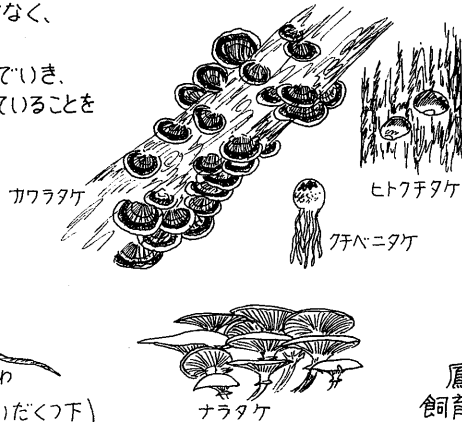
ところで蛇は口先から皮をぬいていき、脱け殻は皮がうらがえしになっていることをごぞんじてしたか。



## 「きのこを学ぶ」学習会

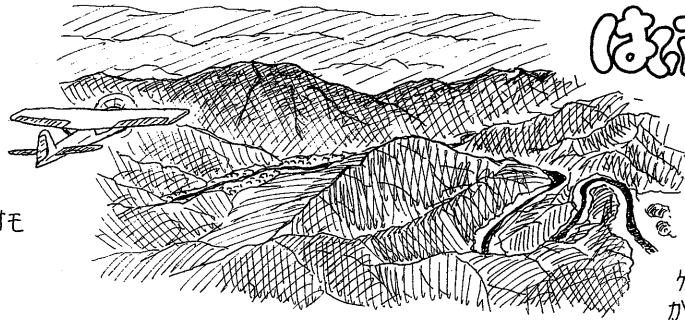
(平成15年10月12日、くもり、100人参加)

長篠の医王寺を会場にして、周辺の山や麓で観察と採集をおこないました。この秋は、どの山に行ってもきのこのころしきに出会えません。この医王寺山でもそうでした。皆で採集したきのこを持ち寄ると、硬質菌(サルノシカケのなかま)ばかりが集まりました。



お引越し (平成15年8月末日)

里親のない生きものは、敷地内で引越しです。前庭の池にいたイモリや、テンジソウ、フトイ、ヘラオモダカ、カキツバタは、展示棟脇の池へ避難。事務室にいたコリハスグ(Ⅷ号)は学習室のトイレ。ミルワームは、軒下といったくあいです。もうしばらくのしんぼうです。



## 休館中のお仕事 (平成15年9月~16年2月)

休館中は何しているの? とよく質問されます。今年度は博物館ができて、ちょうど40周年です。館の40年の歩みをまとめた「館報33号」の編集と執筆、そして記念誌「鳳来の自然・ガイドブック」の編集と執筆が大きな仕事です。それから、野外学習会や日常の事務はいつもどおりおこなっています。今後は、来年度の計画や予算、40周年記念式の準備、工事完了後のひっこしや、展示作業などの仕事が残っています。



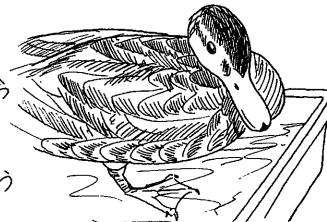
## カモが来た

(平成15年9月15日)

環老塾地内の海老川で、翼の骨が折れたカモが保護されました。博物館にとどけられましたが、過去に飼ったこともありませんし、今は仮住い中です。カモの種類もよく判りません。

動物園などに問いあわせたところ、どうやらアイガモらしいということになりました。

仮設事務所では、大きく飼育していましたが、鳳来西小学校の1年生が、飼育小屋まで作ってくれ、めんどうをみてくれることになりました。



## 鳳来町を空から見る

(平成15年10月3日)

学術委員の小山先生と搭乗しました。セスナ機は名古屋屋港から15分で鳳来町上空にきました。風が強かったため、低空では飛ばせませんでした。鳥の目線で町のようすを写真に記録できました。ガイドブックに使う予定です。



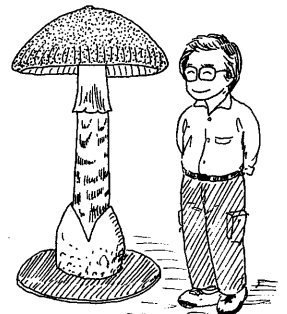
## 仕事場 (平成15年9月~12月まで)

改修工事で本館に入れなため、駐車場にプレハブの仮設事務所を建ててもらいました。9月になって室温が39°Cほどになる日もありました。近頃はだいたいしゅうぶです。

## ~発見!キノコと山菜、薬草の魅力~

(平成15年9月27日~11月24日)

関市の岐阜県博物館の秋季特別展のテーマです。当館からも冬虫夏草の標本や写真が出向いています。今年は工事で恒例のきのこ展が開催できません。「野の幸・山の幸」に出会いたい方は、ちょっと足をのびしてみてください。きっと楽しめますよ。



# 博物館改修工事完了

平成15年12月5日、博物館大規模改修工事が完了しました。  
耐震補強を兼ねた、外側を中心とした老朽部分の改修工事でした(No.86  
参照)。本館と展望室に屋根がかけられ、本館正面は塗壁に  
仕上げ、見ちかえるようになりました。

## 改修内容

**本館** 耐震壁  
屋上の屋根、ひさしの取り付け  
壁面の掻き落とし、洗い出し仕上げ  
鋼製サッシの取り替え  
事務室内改修(ワンフロア化、床壁、天井改装)  
講堂の改修(床、壁の改装)  
ロビーの改修(談話コーナー、ミュージアムショップの設置)  
仏法僧コーナーの改修(壁紙の張り替え)

**階段室  
展望室** 壁面の塗装、耐震壁  
屋根の取り付け  
サッシ取り替え

**展示館** 耐震壁  
外壁の塗装  
鋼製サッシの取り替え  
屋上防水処理  
屋上手すりの取りかえ  
耐震壁面の展ケース、展示壁の新設

**植物庫** 標本保管庫の屋根のひきかえ

**中庭** 動物保護用網室設置

**前庭** 池のつけかえ  
階段登り口のモルタル仕上げ  
砂利敷き

リニューアル オープン ☺☺2月29日(日)☺☺

新装開館は2月29日(日)、8時30分からです。  
現在、オープンに向けて工事で避難していた展示物の復  
旧作業をしています。館の職員だけでは、とても手におえな  
いので、教育委員会と博物館協力隊(ボランティア)の力強い  
応援を受けて、全力で進めているところです。  
新しくなった博物館を、今まで以上に利用していただける  
よう、いっしょけんめいに準備しています。オープンしましたら  
ぜひ見学にいらして下さい。

## 開館40周年記念事業

- 記念式典の開催 2月28日(土)
- 40周年記念館報(第33号)の発行
- 40周年記念刊行物  
「鳳来の自然・観察ガイドブック」の発行  
春には、市内の各家庭に1冊、おとどけ  
できると思っています。お楽しみに♡

## 感謝の気持ち

この工事では140日間、延べ1,674人の人  
が工事にたずさわりました。古い建物のため、予期しな  
い様々な問題にぶつかりましたが、誠実に対応がなされ、無事に完了することがで  
きました。工事中は、何かと迷惑をかけたにもかかわらず、暖かく見守ってくれた近隣の方々  
そして、限られた工期でけんめいに働いてくれた工事関係のみなさんに感謝いたします。



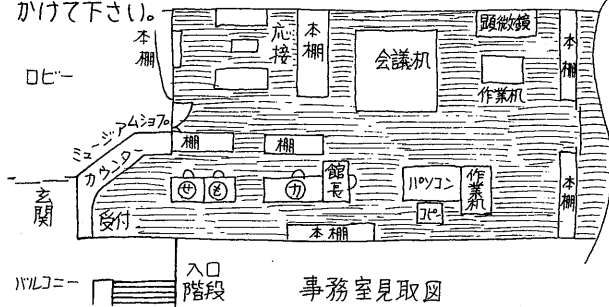
# 臨時休館中の博物館のお仕事

鳳来寺山  
自然科学  
博物館

はがっかだつり No. 89  
2004.2

## 新装事務室へのお引越し (平成15年12月18-19日)

改修工事が12月5日に完了し、それまでお世話になっていたアレルハの仮設事務所から引越しました。教育委員会事務局総出の応援で、大量の荷物を移動し終えることができました。細かく仕切られていた壁をとりはらって、とても仕事かしやすくなりました。窓口のカウンターも広く大きくしました。ご来館の際は声をかけて下さい。

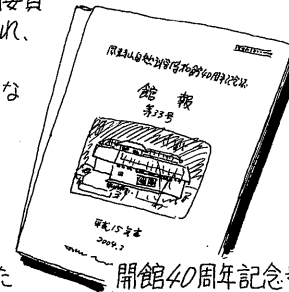


## オープン準備と展示復活作業 (平成15年12月20日~16年2月27日)

2月28日の40周年記念式典、そして翌29日のリニューアルオープンに向けての作業を連日連夜おこないました。約2ヶ月間でお客様に見学していただくように館内の展示をし終えなければなりません。長年にわたる手を入れずにきた展示物や収蔵標本のそうじから始めなければなりません。これには友会のボランティアグループ「博物館協力隊」と教育委員会の力強い支援をいただきました。夏の作業から数えると、協力隊は延べで96人、教育委員会からは67人の動員がされたこととなります。ほろこまみれ、汗まみれ、筋肉痛、腰痛になりながらの作業でした。みなさんの応援がなければ、どうしてオープンに間にあらなかったです。



## 館報33号 (平成16年2月20日)



開館40周年記念号として館の誕生の歴史から今日までの歩みをまとめました。

さらに、学術委員の執筆記事や、博物館刊行物の総目録をつけ、これ一冊で館の足跡がすべてわかるようにしてあります。B5判、108頁、200冊のみ限定販売です(1200円)。

## 博物館協力隊大活躍

平成15年度に発足した友会のボランティア組織「博物館協力隊」(21名)のみなさんには、感謝感激です。今年度は大規模改修工事があり、研修もなしでいきなり作業をお願いしました。若石、化石のクリーニング、剝製の手入れ、館内大どうじや展示ケースのそうじ、補修、樹木の剪定など、あらゆる場面と場所で大活躍でした。人材の宝庫です。若石やハワセイの手入れには、専門的な技術をもっている水谷さんにアドバイスをもらえました。工事完了からオープンまで残る日数も限られ、初めは工事箇所だけの展示改善を考えていましたが、協力隊のおかげで全展示の3/3を改善することができました。ここに作業に参加していただいた方々のお名前を記して謝意を表します。(敬称略)

深見紀光、深見知子、小原克好、水谷十三朗、山本光昭、竹之内昭夫、高橋康夫、吉田彰、武藤和利、中尾宜民、鳥居小夜子、屋野京子、豊田孝子、岡本光生、野口明義、及部正弘、清水淳、高木啓、福田利恵、鈴木誠一、加藤貞……協力予備隊(山崎涼乃、理未、架奈、大中愛子、加藤美智代、あゆみ、めぐみ、尊常) 多忙な中を時間をこじあけたり、貴重な休日を館のためにかけつけてくれたか、有給休暇までとってはせ参じてくれた方もいます。協力隊に心から感謝します。

## 出前講座・講演・観察会講師 (平成15年9月~平成16年2月)

友会行事「館長と訪ねる大地のふしぎ」(出馬~浦川、52名参加)、ちさと文化講座(新城市下郷中)など、市内内外の学校や公民館の要請で、館長と学芸員が出前に出かけました。



休館中でも出前ならば大丈夫です。この間、2人で16回の出前で講師をつとめました。

## 町ごと屋根のない博物館の野外学習会 (平成15年11月~16年2月)

休館中は博物館が使えないので、まさに屋根のない博物館状態でした。鳳来町は平成10年から町全体を生きた博物館として「町ごと屋根のない博物館」事業を進めています。当館の野外学習会は、その事業の一環としても行なっています。

- 紅葉の県民の森(平成15年11月22日、はれ、56人参加)
- 野鳥の生態を観察し、巣箱をつくろう(平成16年1月25日、はれ、55人参加)
- 鳳来寺山を歩いて冬の自然を見よう(平成16年2月15日、しぐれ、68人参加)



消しゴム出席印

## 平成15年度運営審議会(平成16年2月16日)

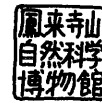
今年度の博物館の活動状況と新年度事業について審議され、承認されました。そして改修を終え、オープン直前の館内外を視察していただきました。また展示作業の真最中で、片付いておらず、式典に間にあうのか心配されたと思います。

## 鳳来の自然・観察ガイドブック (平成16年2月26日)

40周年記念事業として取り組んできた「鳳来の自然・観察ガイドブック」が完成しました。A5判、185頁のオールカラーの冊子です。鳳来町を10コースにわけて、動物、植物、地学の分野で、わかりやすく紹介しています。各コースに登場するさまざまな自然について後半部分で写真図鑑として解説を加えています。このガイドブックを手に、鳳来のすばらしい自然を多くの人に知ってもらいたいと願っています。(特価1000円で販売開始)



# 開館40周年記念式典・リニューアルオープン

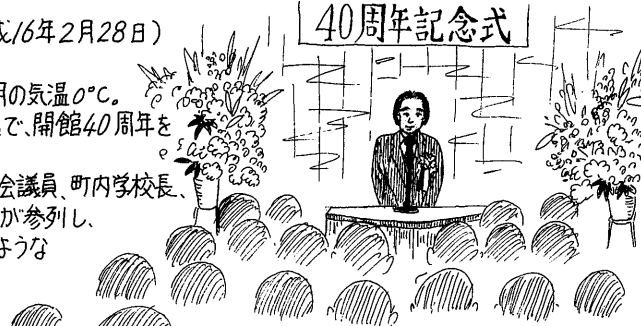


## 40周年記念式 (平成16年2月28日)

曇ひとつない快晴、この日の早朝の気温0°C。澄みきった空気につつまれた博物館で、開館40周年を祝う記念式が挙行されました。

博物館顧問、学術委員、県・町議会議員、町内中学校長、教育委員、友の会員など、関係者85名が参列し、盛大な会となりました。式は次のような内容でおこなわれました。

- ・物故者に黙とう
- ・町長式辞
- ・学術委員、顧問、長期運営審議会委員に感謝状贈呈
- ・来賓祝辞(佐宗県議、生田議長)
- ・友の会員・伴公太くんの話
- 活動報告、記念講演
- ・館長あいさつ
- ・仲井豊先生の話
- ・大平仁夫先生の話
- ・牧野先生による記念誌紹介
- ・高木典雄先生の記念講演

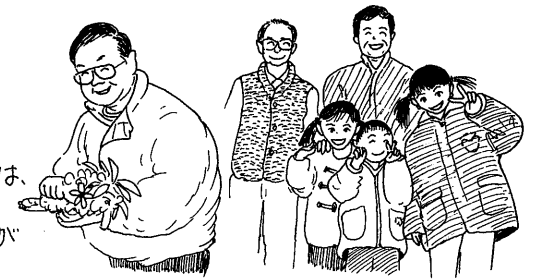


## リニューアルオープン入館者第一号

(平成16年2月29日)

半年間の臨時休館を終え、この日、新装開館しました。記念すべき一番の日は、友の会員の嵐さん(津島市)でした。職員が出勤してきたときには、すでに駐車場で待っていてくれました。

また、町内では、地元の野沢さん、吉林さん父子がまっ先に見学に来てくれました。



## 展示更新・館内もリニューアルしました



下江町長から感謝状と記念品の贈呈

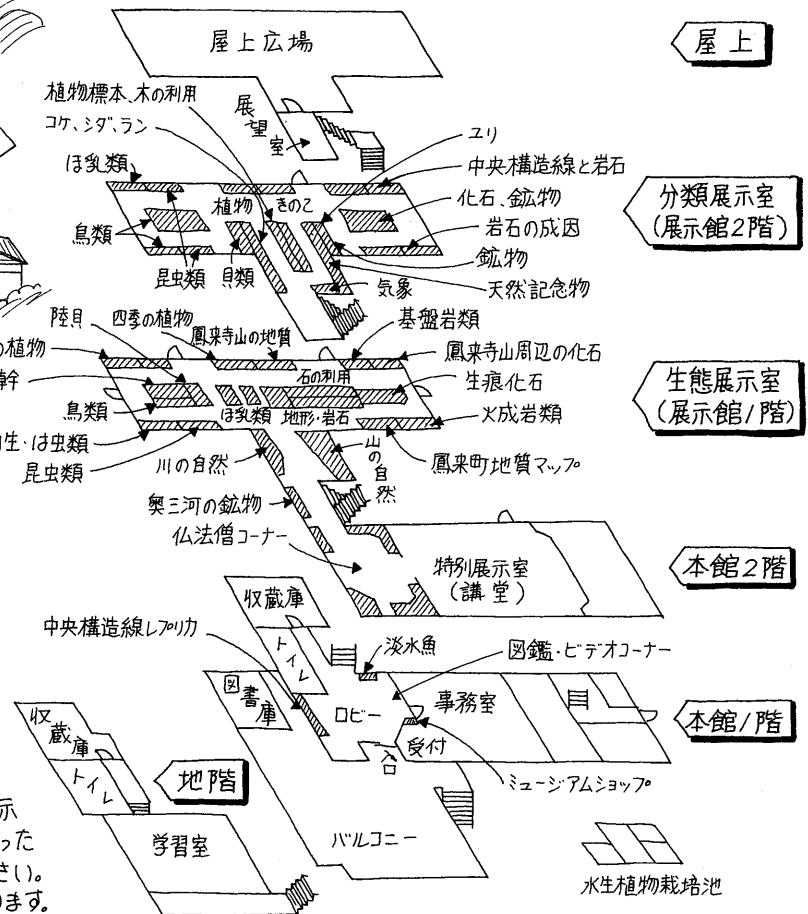


全国に知られた二重展示方式(ダブルアレンジメントシステム)の考えはそのままに、旧来の展示の更新をおこないました。

横山館長から資金援助も得て、職員と協力隊の手づくりの展示となりました。

短期日の作業であったため、不十分で改善点や問題がまだまだ残っていますが、改修前と比べるとずいぶんよくなったと思います。

今後、知恵をしぼってよりよい展示をめざして、努力します。新しくなった博物館をぜひ見学し、ご利用下さい。そして、率直なご意見をお待ちしています。



学術委員、顧問、町長、教育長、館職員で記念撮影

《式典のくわしい内容は、16年度館報第34号に収録する予定です》